



万博のピンクソルトを交流の架け橋に 市内小学校でパキスタンとつながる出前授業を実施

市は、令和8年1月13日（火）、市立菅原小学校で、パキスタンとオンライン中継を結び、現地にいる講師から同国の地理や歴史、文化などを学ぶ出前授業を実施する。

授業では、大阪・関西万博の共同館・コモンズDで人気を集めたパキスタンパビリオンから寄贈を受けた「ピンクソルト」と呼ばれる岩塩を活用。同校には今年度、パキスタンから転校してきた2年生・4年生の児童がおり、市の担当者は「万博の岩塩を交流の架け橋として、言葉の壁や文化・習慣の違いを超えて児童たちが交流を深め、多文化共生や国際意識の醸成につなげてもらいたい」と期待する。

★出前授業概要

日 時：1月13日（火） 5時間目（午後1時35分～2時20分）【2年生87人】
6時間目（午後2時25分～3時10分）【4年生86人】

場 所：市立菅原小学校（枚方市藤阪中町13-1）

授業内容：パキスタン在住の講師から同国の地理や歴史、文化のほか、現地の食事や習慣などを学ぶ出前授業（現地からのオンライン中継）

★講師紹介

氏 名：白井 真理子（しらい まりこ）氏

所属・役職：株式会社コックス&キングス・パキスタン 取締役統括マネージャー

経 歴：枚方市生まれ、パキスタン在住（26年目）。万博でのパキスタンパビリオンの運営に同国政府側で携わり、閉幕後には岩塩の寄贈の調整を担当。

コメント：「万博を通じて自身のルーツである枚方とご縁ができ感謝。また、枚方の子どもたちにパキスタンのことを知ってもらえる機会をいただき、これほどうれしいことはない。子どもたちをはじめ、両国のさらなる交流促進のお役に立てるようしっかり務めたい」

★岩塩寄贈の経過

令和7年10月29日（水）にパキスタンパビリオンのモハンマド・ナシール館長が市に来訪し、岩塩の贈呈を受けた。

寄贈されたのは「ピンクソルト」と呼ばれる岩塩計3個で、ナシール館長が8億年前の海底が隆起したものが岩塩となっていると説明した上で「パキスタンからの自然の贈り物である岩塩を枚方に飾ってもらえてうれしい」とあいさつ。伏見市長からナシール館長に感謝状が手渡された。伏見市長は「歴史の重みがある岩塩の寄贈をきっかけに交流を深めていきたい。」と話した。



パキスタンパビリオン
万博では展示部門ブロンズ賞と
エディターズ・チョイス賞を受賞



贈呈式で岩塩を手にする
ナシール館長と伏見市長



寄贈された岩塩。重さは大きいものが
約 18 kg、小さいものが約 4 kg

★岩塩などの展示

パキスタンパビリオンからの岩塩の寄贈に加え、ポルトガルパビリオンからパビリオンの装飾で使用されていたロープの寄贈を受けた。市では、多くの人に見てもらえるよう、令和7年11月19日（水）～12月21日（日）に市立生涯学習交流センターで展示。現在は枚方ビオルネで展示中。今後は以下の日程で展示予定。

【枚方ビオルネ】

期 間：12月24日（水）～1月12日（月・祝）

場 所：枚方ビオルネ1階イベントスペース

【くずはモール】

期 間：2月3日（火）～2月16日（月）

場 所：くずはモール本館ハナノモール2階デリス横



生涯学習交流センターでの展示の様子

<お問い合わせ>

総合政策部 政策推進課

☎072-841-1149 Fax072-841-3039

Mail seisakusuisin@city.hirakata.osaka.jp